



浪江町長
吉田 数 博

令和4年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
いまだ不自由な避難生活を強いられている方々に、心よりお見舞い申し上げます。
年頭にあたり、これまでの復興状況と今後の取組についてご報告いたします。

昨年を振り返って

昨年は、コロナ禍の中ではありましたが、これまでの取組が少しずつ成果として見え始めた年でした。

3月「道の駅なみえ」、8月「福島いこいの村なみえ」がグランドオープンを迎え、10月には「震災遺構浪江町立請戸小学校」が開館しました。産業においては、多くの企業との協定や「福島高度集成材製造センター」の完成のほか、営農再開を後押しする施設として苅宿、棚塩にカントリーエレベーターが完成し稼働を開始しました。さらに、畜産業の再生に向け、最新技術により周辺環境への影響を最小限にした大規模牧場の計画を進めているところです。

他にも、町の水道水「NA MIE WATER」がモンドセレクション『金賞』を受賞したことや、東京オリンピック

ク、パラリンピックで浪江町の水素が聖火を灯し、メダリストにトルコギキョウが贈られたことなども、町を取り巻く明るい話題となりました。

脱炭素社会の実現に向けて

町は、再生可能エネルギーの地産地消に取り組んでおり、現在、電気自動車を使った公共交通サービスの実証実験「なみえスマートモビリティ」が行われています。

また、浪江産の水素は太陽光由来のクリーンなエネルギーであるため、国が進める脱炭素の切り札として先進的な実証実験が多数実施されており、浪江町は水素の実用化において国内をけん引しています。

そして、米国のランカスター市と水素利用に関する連携協定を締結しました。自治体同士による世界初の取組であり、水素の可能性を広げる歴史的な挑戦として「水素閣僚会議2021」や「COP26」において、町の再生可能エネルギー地産地消の取組とともに世界に発信いたしました。
引き続き、未来を生きる子供たちのため、豊かで暮らしやすい町づくりとともに、脱炭素社会の実現を目指します。

中心市街地の賑わい再生

中心市街地には空き地が増えていますが、こうした今だからこそ大胆な整備に取り組みます。町民の皆さんが誇りを持てる故郷にしたいとの想いから、町の顔である駅前周辺は、オリンピックスタジアムを設計された世界的建築家の隈研吾氏らのお力を借りることにしました。

隈先生のデザインと町の歴史、文化、産業と最先端技術が融合した、世界に誇れる素晴らしい街並みにするため、緑を多く配置し、暮らしやすい町であるのと同時に、町内で加工された木材を使った建物や、再生可能エネルギーを活用した環境に優しい「持続可能な町」を作ります。

そして商業エリア、居住エリアなどとともに、駅西側では来春完成予定の介護施設や図書館、アスレチック施設などが建設中ですので、駅の東西での相乗効果によって更なるにぎわいを再生します。

帰還困難区域について

津島、末ノ森、室原の特定復興再生拠点区域は、令和5年春の解除に向けた準備が順調に進んでいます。一方、拠点

点区域外については、国から「2020年代には帰還を望む全ての住民が帰ることを目指し、必要な場所を除染する」との方針が示されました。一歩前進ではあるものの、皆さんのふるさとの大切な土地ですから、除染無き解除はありません。今後もすべての地域の避難指示解除を目指し、引き続き要望してまいります。

結びに

今を生きる者として、先人から受け継いだふるさとを守り、子や孫たちが誇りを持って住みたいと言える町にしたいと、復興に取り組んでおります。

なかなか思うようにはいきませんが、町づくりに近道は無く、一歩ずつ進むしかありません。これからも、皆さんがいつでも帰れるよう「ふるさと浪江」を全力で整えてまいります。

結びになりますが、「新型コロナウイルス」の脅威が続いています。健康にご留意いただき、新年が皆さんにとって素晴らしい年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

新年のご挨拶



浪江町議会議長
佐々木 恵 寿

新年明けましておめでとうございます。議会を代表しまして、謹んでご挨拶を申し上げます。

皆さまにおかれましては輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より議会への深いご理解と、議会活動への温かいご支援・ご協力に対し、議員一同、厚くお礼を申し上げます。

まず初めに、新型コロナウイルス感染症拡大により様々な影響を受けられた皆さま、不安の中におられる皆さまに對しまして、心からお見舞いを申し上げます。

昨年を振り返りますと、一昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、活動の制限、自粛など非常に厳しい議会運営を迫られた1年でありました。皆さまにおかれましては、制限のかかった不自由な生活を強いられ、様々な面でご苦労された1年だったのではなかったかと思えます。

このような中、4月には議

会議員選挙が行われ新しい議会体制の下、議会改革の一環として、事務の効率化、ペーパーレス化を目指し、議員向けタブレット端末の導入についての検討を進め、今年からの運用を実現したところであります。今後も、議会改革の足を止めることなく様々な課題にチャレンジしてまいりたいと思います。

さて、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故からまもなく11年を迎えます。議会としては町民の皆さまがどのようなことを感じ、何を求めているのかを意識し、町民の声を、町はもちろん国や県などにも届けるべく、努めております。残念ながら昨年も例年実施していた議会報告会のように、皆さまの声を直接お聴きするような機会を設けることは叶いませんでしたが、議会定例会、臨時会、委員会などを通して、町の課題や、その解決策などについて町と議論を重ねてまいりました。本年においても、議会

がすべきことを実践し、町民

に求められていることを一つでも多く実現できるよう、議員一同、精一杯努力してまいります。

また、議会では議員定数調査特別委員会を昨年立ち上げ、適正な議員定数についての調査を開始したところであります。二元代表制の一翼を担う議会として、自主性を高めつつ、常に町民に寄り添い、わかりやすく開かれた議会の構築に努めてまいり所存であります。今後とも町民の皆さまのご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

結びに、今年一年が皆さまにとって良い年になりますよう、心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



浪江町議会議員
(議席番号順)

武藤 晴 男	紺野 豊	吉田 邦 弘	小澤 英 之	半谷 正 夫	紺野 則 夫	佐々木 茂	山本 幸 一郎	高野 武	渡邊 泰 彦	松田 孝 司	平本 佳 司	佐々木 勇 治	山崎 博 文	紺野 榮 重
--------	------	--------	--------	--------	--------	-------	---------	------	--------	--------	--------	---------	--------	--------